

平成 30 年度 回復期リハビリテーション病棟 退棟患者集計 (10 月報告)

1. 回復期リハビリテーション病棟 退棟患者数とその内訳 (平成 30 年 7 月～9 月 集計)

退棟患者全体 (名)		114名	
内訳	(1) 脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント手術後、脳腫瘍、脳炎、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷等の発症、義肢装着訓練を要する状態又は手術後 2 か月以内 (名)	30名	26.3%
	(2) 高次脳機能障害の患者 (名)	24名	21.1%
	(3) 大腿骨、骨盤、脊髄、股関節又は膝関節の骨折の発症、二肢以上の多発骨折の発症後又は手術後 2 か月以内 (名)	52名	45.6%
	(4) 外科手術又は肺炎等の治療時の安静により生じた廃用症候群を有しており、手術後又は発症後 2 か月以内 (名)	6名	5.3%
	(5) 大腿骨、骨盤、脊髄、股関節又は膝関節の神経、筋又は靭帯損傷後 1 か月以内 (名)	0名	0.0%
	(6) 股関節又は膝関節の置換術後 1 か月以内 (名)	2名	1.8%
	(7) (1)～(6)に準ずるもの (名)	0名	0.0%

2. 回復期リハビリテーション病棟 退棟患者 実績指数 (平成 30 年 4 月～9 月 集計)

実績指数の構成(平成30年4月～9月)	患者数	実績指数
退棟患者全体 (名)	224名	34.51
(1) 脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント手術後、脳腫瘍、脳炎、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷等の発症、義肢装着訓練を要する状態又は手術後 2 か月以内 (名)	55名	38.41
(2) 高次脳機能障害の患者 (名)	39名	46.98
(3) 大腿骨、骨盤、脊髄、股関節又は膝関節の骨折の発症、二肢以上の多発骨折の発症後又は手術後 2 か月以内 (名)	107名	31.68
(4) 外科手術又は肺炎等の治療時の安静により生じた廃用症候群を有しており、手術後又は発症後 2 か月以内 (名)	13名	26.96
(5) 大腿骨、骨盤、脊髄、股関節又は膝関節の神経、筋又は靭帯損傷後 1 か月以内 (名)	0名	0
(6) 股関節又は膝関節の置換術後 1 か月以内 (名)	9名	18.73
(7) (1)～(6)に準ずるもの (名)	1名	13.33

※実績指数

回復期リハビリテーション病棟の効果を計る指標として厚生労働省により報告が義務づけられている点数となります。入院期間が短く、かつ日常生活動作能力(FIM 点数によって評価)が顕著に改善すると点数が高くなるようになっていきます。厚生労働省は 27pt 以上を回復期リハビリテーション病棟の目標としています。